

～健康・朗らかで連帯感あふれる広川町づくりを目指し活動してきました～

定例教室



スポーツ吹矢



リラクゼーションヨガ



自彊術



お茶教室

スポット事業



絵巻寿司作り



クリスマスコンサート



キッズスポーツ吹矢



春風ウォーキング

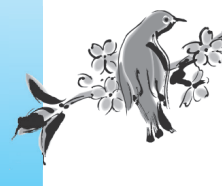
健康増進や仲間づくりの輪を広げませんか。

定例教室は随時参加者を募集しています。希望者はお問い合わせください。

〒0943-32-0093 廣川町総合クラブひろかわ事務局（教育委員会事務局生涯学習係内） ☎ 0943-32-0093

広川文芸

ひろかわ俳句会



下り鮎ふつくら焼かれご相伴
 熱々のカボチャスープに舌つづみ
 湧水の音なき川や照もみぢ
 どこまでも続くこの道草もみぢ
 早朝の葱青々と背を伸ばす
 ドングリの屋根打つ音や夜更けの湯
 父母の眠れる里や冬ぬくし
 青空や野鳥集まる熟し柿
 新米に頬の筋肉ゆるみけり
 黒門の紅葉ひとひら朱印帳
 物価高我が財布にも秋が来る
 潮風の吹き添ふ立木大根干す

結束 節子
 福田美知子
 原口あつ美
 青木佳代子
 柴田 眞理
 渡辺 弘子
 酒井 司
 原口 正信
 野中 勝美
 一瀬砂智子
 溝田 幸
 水本 艶子

櫻の会

朝ごとに風に舞ひ散るゆづりの葉仕事始めに集めてまはる
 賜りし青梗菜は無農薬うまし旨しと虫も食みをり
 枕辺の秒針きざむ音たしか吾が残生の鼓動かと聞く
 頬紅や口紅ぬりてすまし顔おもちゃ鏡にくひ入る五歳
 おほらかに山寺の鐘時を告げ母在るときへ吾をいざなふ
 めぐり逢ひて六十五年「ありがたう」亡夫はいつでも微笑み返す
 煩惱は流せたでせうか歳晩の湯は大胆に肩より落つる

野中 勝美
 濱武美智子
 山崎美代子
 一瀬砂智子
 中倉 明美
 小西 俊郁
 青木佳代子

「ひろかわ俳句会」会員募集しています。◆日時 毎月第1(休)、9:30～11:30 ◆場所 町民交流センター「いこっと」

学校と教育制度の変遷 その10

～ 戦時下の学校の様子 ～

太平洋戦争が始まる

昭和16年(1941年)12月8日、我が国は米英に対して宣戦布告したことで、太平洋戦争が始まりました。戦局もこれまでに比べて大きく厳しいものとなり、世界大戦へと拡大することとなります。

そのような戦時下に、下広川国民学校が、同19年2月11日、福岡県から旌表校の表彰を受けています。中広川尋常小学校が受彰(大正7年)の時とは違って、旌表旗はなく表彰状のみではありましたが。

食糧増産のために、運動場も耕される事態に

同18年ごろになると我が国を取りまく戦況は悪化し、国民生活全般が逼迫してきます。殊に食糧不足が顕著となる中、学校の運動場も耕され、食糧増産運動の一端を担うありさまでした。

上広川国民学校では、山の道場(大字水原字中島谷)を開墾して、サツマイモなどを植えた(17年ごろか)といい、下広川国民学校でも、裏山を開墾し畑となり、記憶が定かではないものの大東亜園と呼んでいたと、聞いたことがあ

ります。後に山の運動場として整備されました。中広川国民学校でも、運動場がこの時期に耕されて畑となりました。

戦争激化の状況下に、学童疎開が始まる

同19年6月30日、「学童疎開促進要綱」が閣議決定され、本土空襲や食糧不足などから子どもたちを守る施策です。

京浜・阪神・北九州・名古屋地域(大都市や軍施設など集中している)の、国民学校初等科の3年生から6年生と、縁故疎開のできない児童は、強制的に集団疎開することとなったのです。1年生・2年生が含まれていないのは、親から離れて見知らぬ土地での共同生活は、困難であろうとの理由からです。

さらには高等科以上の児童は、学徒動員による労働力とされていたことで、疎開対象とはなりません。

またこのころからです。空襲を避けるため、各学校では防空壕が掘られました。下広川国民学校の場合は、知徳城跡の山にいくつも用意された、「同校創立百周年記念誌」は伝えます。

農作業の繁忙期に入ると、出征して担い手がなくなつた家などへは、作業の応援に駆け出されるようになるのもこのころからです。そのような期間には、田植え休み・穀物収穫休みなどで、学業が休みとなつていたことを想い出します。

『下広川小学校創立百周年記念誌』には、「空襲が激しくなると裏山に防空壕を掘り、児童を緊急避難させるやら、御真影を護つて、壕に駆け込むなど、毎日の授業が全く落ち着かなかつた」と、当時の校長の寄稿が載っています。

小學修身訓

來年ノ衣食住ハ今年ノ艱難ニ在リ
年々歳々報徳ヲ忘ル可ラス
父母もそのち、は、も我身なり
我を愛せよわれを敬せよ
春の野にめ立つ草木をよく見れば
さりる秋の種にぞありける

▲修身教科書

広川町古墳資料館だより

十二支のなかで唯一、架空の生き物である「たつ」の年になりました。

水や海の神としてまつられ、長い体に四脚と角やひげをもつ龍のイメージが日本列島に伝わってきたのは、弥生時代

後期(1~3世紀)と考えられており、農耕に關係する水神である龍の意味を理解し、土器に描いていたようです。

太古の昔から、大自然を支配する龍神を拜んでいたということでしょう。



▲池上曾根遺跡から出土した土器の龍絵画